

古代文化センター令和2年度調査研究年報

■古代文化センター企画運営委員会

〔1〕第1回（令和2年11月11日（水） 於：松江市殿町 サンラポーむらくも）

出席委員 6名（佐藤、関沢、仁藤、引野、山村亜希、山本）

(1) 議 事

① 基礎研究

- 1) 考古基礎資料調査研究
- 2) 風土記調査研究
- 3) 祭礼行事調査研究
- 4) 中世・近世史料の多角的研究

② テーマ研究

- 1) 山陰弥生文化の形成過程
- 2) 『日本書紀』と出雲観に関する研究
- 3) 山陰における古代交通の研究
- 4) 出雲神楽の研究
- 5) 中世石見における在地領主の動向
- 6) 古代出雲と吉備の交流
- 7) 近世近代の交通と地域社会経済
- 8) 出雲と伊勢
- 9) 古代隠岐の形成と特質
- 10) 令和3年度開始予定のテーマ研究

(2) 報 告

- ① 古代文化情報発信事業
- ② 古代歴史文化に関する共同調査研究事業
- ③ 古代文化の郷「出雲」調査事業・史跡出雲国府跡発掘調査
- ④ 古代出雲歴史博物館での企画展実施状況

〔2〕第2回（令和3年3月15日（月） 於：松江市殿町 サンラポーむらくも）

出席委員 9名（佐藤、久留島、坂井、関沢、仁藤、引野、山村亜希、山村桃子、山本）

(1) 議 事

① 基礎研究

- 1) 考古基礎資料調査研究
- 2) 風土記調査研究
- 3) 祭礼行事調査研究
- 4) 中世・近世史料の多角的研究

② テーマ研究

- 1) 山陰における古代交通の研究
- 2) 出雲神楽の研究
- 3) 中世石見における在地領主の動向
- 4) 古代出雲と吉備の交流
- 5) 近世近代の交通と地域社会経済
- 6) 出雲と伊勢
- 7) 古代隠岐の形成と特質
- 8) 令和3年度開始予定のテーマ研究

(2) 報告

- ① 古代文化情報発信事業
- ② 古代歴史文化に関する共同調査研究事業
- ③ 古代文化の郷「出雲」調査事業・史跡出雲国府跡発掘調査
- ④ 古代出雲歴史博物館での企画展実施状況

■調査研究事業

〔1〕基礎研究

(1) 考古基礎資料調査研究

① 墓制調査

平成30年度・令和元年度に実施した西百塚山19号墳の発掘調査成果を整理・編集し、本書に報告を掲載した。この古墳は西百塚山古墳群（松江市大草町・八雲町所在）中で最大の円墳で径44～49mの規模と想定される。築造時期は出土した埴輪から5世紀前半頃と考えられる。大草丘陵に所在する古墳群を考えるだけでなく、意宇平野の古墳時代中期の状況、周辺の古墳や古墳群などを検討する上で、重要な成果を得ることができた。

また、松江市南郊にある意宇平野の南側丘陵である大草丘陵の分布調査を平成27～30年度に実施した。丘陵全体から西百塚山古墳群115基、才光寺古墳群54基の古墳や横穴墓等を確認した。意宇平野周辺の古墳のあり方を検討する資料を得ることができた。これらの分布調査成果についても、本書報告中に公表している。

なお、踏査によって地表採集された土器類に関する所見は令和3年度刊行の研究紀要『古代文化研究』上に報告する予定である。平成25年度から継続的におこなってきた、松江市南郊の大草丘陵をフィールドとした基礎的研究はこれでいったん完結する。

一方、昨年度からは新たに前期古墳の基礎的研究に着手した。これは将来的なテーマ研究事業の立ち上げを視野に、前期古墳に関する基礎的資料の蓄積と問題点の整理を目的としたものである。当面のフィールドを松江市鹿島町の講武平野周辺に定めて、昨年度は①丘陵上の古墳群分布調査、②名分丸山古墳の三次元測量調査を実施した。今年度は引き続き講武平野の古墳出現期に関する基礎データを得ることを目的として、鶴灘山古墳群の測量調査をおこなった。

鶴灘山古墳群（松江市鹿島町名分）は講武平野西側の丘陵上に営まれた、10基ほどの小方墳を主体とする古墳群である。近接する奥才古墳群と同様に前期から出現する古墳群の可能性はあるが、詳細は明らかになっていない。今年度は群中で墳丘規模が卓越した6号墳、8号墳を中心に測量調査を実施した。その結果、6号墳は墳長38m前後の前方後円墳で、後円部2段、前方部1段築成である。痩せ尾根上に築造されているため前方部は全般に狭小であるが先端は開き気味に造られていることが看取された。また、8号墳は6号墳の北側に隣接して築造された直径20m前後の円墳であるが、6号墳と同等の立地や円墳という墳形から当古墳群内では6号墳に続く盟主墳と位置づけられる。

今回の測量成果から鶴灘山古墳群の盟主墳である6号墳、8号墳は古墳時代前期から中期前葉に築造された可能性が高まった。講武平野周辺に築造される前期～中期古墳群の動向を見極めるための基礎的資料の蓄積となったといえる。

（伊藤・岩崎・岩橋・岩本・大庭・角田・勝部・是田・鈴木・林・東森・廣江・深田・松尾・守岡・吉松優）

② 基礎資料調査（出土品再整理）

本事業は、過去に島根県教育委員会が発掘調査を実施し、現在埋蔵文化財調査センターで収蔵している重要遺跡出土品のうち、報告書非掲載遺物を中心に再整理をおこなってその内容を明らかにするとともに、県民をはじめ一般に広く利用できるようデータベース化をはかることを目的としている。

平成29年度から今年度まで、弥生時代の拠点集落として著名な朝酌川遺跡群（松江市西川津町）の出土品再整理をおこなった。『西川津遺跡Ⅰ』（島根県教育委員会1980）調査分と『西川津遺跡Ⅱ』（島根県教育委員会1982）調査分の出土品について分類、実測及びデータ入力を完了し、今年度はその成果をまとめた報告書『島根県西川津遺跡出土品1－島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所蔵資料再整理事業報告書2－』を刊行した。

こうした再整理調査によって、西川津遺跡の土器出土量は弥生時代前期後半がピークで中期後葉から後期にかけて著しく減少することが明らかとなり、弥生拠点集落としての動態の一端を素描するなど、今後出雲東部

の地域史を復元するための基礎的データを提示する事ができた。

(伊藤・岩崎・岩本・勝部・是田・原田・東森・廣江・深田・守岡)

③ 生産遺跡調査 (県内鑄造遺跡・鑄物師関連資料集成、古代窯業生産)

a. 県内鑄造遺跡・鑄物師関連資料集成

島根県内の鑄造遺跡(遺構・遺物)や鑄物師関連の伝世資料などを集成・調査し、古代から近代にかけての鑄造品の生産・流通の研究をする上での基礎資料をまとめることを目的とする。今年度は、これまでの基礎調査成果を総括する作業を進め、報告に編集して本書に掲載した。報告にまとめた内容は、松江市玉湯町有ノ木遺跡、出雲市斐川町尾田瀬Ⅱ遺跡の鑄造関連遺物に関する調査(平成29年度～)、市山村鑄物師(江津市松江町)工房跡の発掘調査、出土品調査(平成30年度～)、安来市巖倉寺所蔵の鉄製釣燈籠に関する調査、である。このほか、近江の鑄物師地域から勧請された伝承をもつ三田原八幡宮(雲南市吉田町)に関する棟札の調査をおこなった。

b. 古代窯業生産(須恵器・埴輪等の産地分析)

県内の須恵器・埴輪について、埋蔵文化財調査センターに設置している蛍光X線分析機器で胎土分析をおこない、遺物の型式学的研究とあわせ産地や製品の流通について検討するための基礎データを得ることを目的とする。

今年度より、島根県が所蔵する出雲地域の須恵器窯出土品について胎土分析に着手した。分析対象とする資料選別をおこなった門生山根1号窯、門生黒谷1号窯、渋山池古墳群1号窯、古曾志平廻田3号窯のうち、出雲地域では初現期(古墳時代中期)の窯である門生山根1号窯について実測・写真撮影等の分析前の記録が終わった一部について試料調製・測定に着手した。

(上山・岩本・角田・勝部・是田・東山・目次・松尾・渡部)

④ 青銅器調査(荒神谷遺跡青銅器調査)

文化庁がおこなう荒神谷遺跡出土青銅器の保存修理事業にあわせて、考古学的知見の追加・修正作業を実施するもの。今年度は令和元年度に保存修理された銅剣37本を対象に、実測図の修正、細部写真の撮影などを実施した。また、R2年度をもって文化庁の保存修理事業が完了することから、R3年度にはこれまでの調査成果をまとめた報告書の刊行を予定している。今年度はそれに向けた編集方針について検討会をおこなったうえで、図面の浄書、写真等のレイアウトなど編集作業を進めた。

(糸川・神柱・澤田・原田・東山・増田・松尾・渡部)

⑤ 客員研究員と共同の検討会

・2021年3月8日 松江市鹿島公民館・鶴灘山古墳群現地

(2) 風土記調査研究(*は2019年度実施分)

① 基礎資料調査

a. 風土記写本調査

長谷川家本『出雲国風土記』写本調査(2020年11月5日、長谷川家)

(参加者)吉松大志・野々村安浩

絲原家蔵『出雲国風土記』写本調査・撮影(2020年11月24日、絲原記念館)

(参加者)吉松大志・野々村安浩

b. 風土記写本デジタル化

2019年4月より、過去に当センターが撮影した『出雲国風土記』等の写本写真のネガフィルム・ポジフィルム等のデジタルデータ化を実施。2020年7月に完了。

② 歴史景観復元調査

a. 国府周辺の研究(風土記の丘地内調査支援)

第32回史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会(2020年10月19日、八雲立つ風土記の丘ガイダンス棟研修室)

(出席者)吉松大志

*第30回史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会(2019年6月5日、八雲立つ風土記の丘ガイダンス棟研修室)

(出席者)平石充・吉永壮志・林健亮

* 第31回史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会（2019年10月31日、八雲立つ風土記の丘ガイダンス棟研修室）
（出席者）吉永壮志・林健亮

③ 出雲国風土記校訂・注釈本作成

今年度前半は、昨年度中に終了しなかった注釈の再検討を継続して行った。

a. 『出雲国風土記』校訂・注釈本作成 内部作業会

第1回（4月6日）河川・巻首注釈の検討

第2回（4月30日）海浜部注釈の検討

第3回（5月13日）海浜部注釈、河川・巻首注釈の検討

第4回（5月28日）河川・巻首注釈の検討

第5回（6月18日）河川・巻首注釈、郡末通道・巻末注釈の検討

第6回（6月30日）郡末通道・巻末注釈の検討

第7回（7月15日）郡末通道・巻末注釈の検討

第8回（7月22日）郡末通道・巻末注釈の検討

第9回（7月28日）郡末通道・巻末注釈、山野注釈の検討

第10回（8月17日）山野注釈の検討

第11回（8月21日）山野注釈の検討

第12回（9月1日）山野注釈の検討

b. 第11回『出雲国風土記』校訂・注釈本作成指導会（2020年10月、書面開催）

『出雲国風土記』各注釈や総説の記述内容について

（指導委員）佐藤信（東京大学名誉教授）、荒井秀規（藤沢市）、伊藤剣（明治大学）、高橋周（出雲市）

c. 第12回『出雲国風土記』校訂・注釈本作成指導会（2020年12月20日、古代文化センター）※はオンライン参加
校訂・注釈本に執筆する総論について

伊藤剣「編纂物としての『出雲国風土記』の文学性」

高橋周「『出雲国風土記』の写本と写本系統」

（指導委員）荒井秀規*、伊藤剣*、高橋周、山村桃子（島根県立大学）

（オブザーバー）佐藤雄一*（駒澤大学）

（県職員出席者）平石充・久保田一郎・吉松大志・吉永壮志・林健亮・野々村安浩・橋本剛

d. 第13回『出雲国風土記』校訂・注釈本作成指導会（2021年3月28日、古代文化センター）

校訂・注釈本に執筆する総論について

佐藤信「風土記の編纂と『出雲国風土記』の成立」

荒井秀規「歴史資料としての『出雲国風土記』」

山村桃子「風土記の神話・伝説的性格」

（指導委員）佐藤信*、荒井秀規*、伊藤剣*、高橋周、山村桃子

（オブザーバー）佐藤雄一*

（県職員出席者）平石充・久保田一郎・吉松大志・吉永壮志・林健亮・野々村安浩・橋本剛

④ 出雲国風土記の総括的研究

a. 兵庫県との研究連携

ひょうご歴史研究室『播磨国風土記』研究班 令和2年度第3回研究会（2021年2月14日、オンライン会議）
（参加者）

*ひょうご歴史研究室『播磨国風土記』研究班 令和元年度第1回研究会（2019年6月22日、兵庫県立歴史博物館）
（参加者）平石充

*ひょうご歴史研究室『播磨国風土記』研究班 令和元年度第2回研究会（2019年9月29日、兵庫県立歴史博物館）
（参加者）平石充 報告「供御のモチーフをめぐって」

*ひょうご歴史文化フォーラム「古墳時代の印南野と倭王権」（2019年11月30日、兵庫県立考古博物館）
（参加者）平石充（パネリスト） 報告「供御のモチーフをめぐって」

⑤ 古代資料集成

- a. 『島根県立古代出雲歴史博物館所蔵 出雲風土記鈔（雲州風土記）』刊行
A4判、全129頁（影印編100頁、解説（岡宏三・大日方克己氏執筆）編29頁）〈一般販売も実施〉
（吉松・平石・久保田・吉永・林・野々村・橋本）

(3) 祭礼行事調査研究

島根県内の祭礼行事および民俗分野に関わる事象について、調査研究と記録作成を行い、その具体的内容と全体的性格を明らかにする。

① 民俗芸能等調査・記録作成

a. 「槻の屋神楽」記録映像の撮影・編集（石山・浅沼・藤原）

「槻の屋神楽」（雲南市木次町湯村）は、昭和37年に島根県の無形民俗文化財に指定された。古代文化センターでは平成14年度（2002）に記録映像を作成したが、その際に未収録だった演目等を中心に、今年度より3ヶ年の計画で撮影を実施する。今年度は2020年10月11日に能舞〈日御碕〉と〈日本武〉の撮影を行い、B DおよびDVDを制作した。

b. 盆踊り所在確認調査

昭和63年度（1988）に「島根県民俗芸能緊急調査」を実施した際、盆踊り等についての報告件数が少なかったため、調査票による所在確認調査と詳細調査を行い、県内の伝承状況を把握する（今年度より3ヶ年の予定）。

② 民俗資料収集調査

a. 民俗芸能関連用具類調査・撮影

県内の民俗芸能や祭礼行事に関連する用具類や史料の調査・写真撮影を行った。今年度実施したものは以下のとおり。

旧揚町神楽方所蔵神楽道具類撮影（石山・中安、2020年7月30日撮影）

原田神楽衣装方所蔵道具類撮影（石山・中安・面坪、2020年8月21日撮影）

唐川自治会唐川神楽所蔵道具類撮影（石山・藤原・面坪、2020年11月28日・12月20日撮影）

奥飯石神楽保存会所蔵道具類撮影（石山・藤原・面坪、2020年12月13日撮影）

b. 須我神社史料調査

須我神社は雲南市大東町須賀に鎮座する旧県社。また、風土記所載の「須我社」比定社でもある。平成26年度から、基礎研究「中世・近世史料の多角的研究」と合同で同社の史料調査を実施しており、まずは全体像を把握するために目録作成を進めている。平成30度からは、テーマ研究「出雲神楽の研究」の構成員も参加し、祭礼行事・芸能に関わる史料の詳細調査も行っている。（石山・中安・面坪・倉恒）

c. 『石見国神社記』の翻刻

同書は明治初年に実施された石見全域の神社調査をもとに、藤井宗雄が各社の社伝や棟札からの情報も加えて明治20年に完成させたものである。同書はこれまで山藤忠氏が『郷土石見』誌上で現江津市・浜田市域部分を翻刻したり、『桜江町誌』や『川本町誌』などが当該町域部分を翻刻したりはしているが、全体としては未刊行のままである。

今年度は邑智郡（上）の後編を本書で報告する。（山崎）

d. 牛尾家所蔵史料目録作成

牛尾家（江津市桜江町）所蔵の近世・近代の文書、牛尾三千夫氏収集資料の目録を作成した。

（石山・藤原・面坪）

③ 基礎調査

昨年度より、「島根県域の祭礼行事と民俗芸能の変容」というテーマのもと、昭和63年に実施された「島根県民俗芸能緊急調査」で報告された約250件と未報告の約250件、計約500件を対象にした現況調査を開始予定である。①bの盆踊り所在確認調査は、この予備的調査として実施するものである。（石山）

④ 客員研究員共同検討会（令和3年2月18日（木） 於：古代出雲歴史博物館）※はオンライン参加

令和2年度の事業報告および令和3年度の事業計画について協議・検討。

《客員研究員》山路興造氏（民俗芸能学会）・笹原亮二氏*（国立民族学博物館）・山崎亮氏（島根大学）・久保田裕道氏*（東京文化財研究所）

(4) 中世・近世史料の多角的研究

急速に史料が散逸しつつある現状を踏まえ、前年度に引き続き島根県の中世・近世の歴史を特徴づける、県内外の公的機関・個人が所有する古文書等の調査を行うとともに、情報発信に努めた。

① 客員研究員共同検討会

2020年11月30日 古代出雲歴史博物館

(議題) 今年度事業の実施状況の報告、次年度事業に係る検討等

(参加者) 客員研究員：西田友広(東京大学史料編纂所)・小林准士(島根大学法文学部)

県職員：目次・石山・中安・田村・面坪・岡・倉恒・濱田・伊藤大・矢野

② 分野別史料研究

2020年6月22日・7月29日・8月28日・9月30日・10月29日・12月23日・2021年2月25日

須我神社(雲南市)文書の調査

2020年7月9日・8月19日・9月16日・10月16日・11月13日・11月19日・12月17日・2021年1月15日・2月12日

宇津卷家(江津市)文書の調査(江津市教委と連携)

2020年9月1日 個人蔵(山口県萩市)赤穴家文書調査(中世在地領主関係文書)

2020年10月9日 峯寺(雲南市)文書・棟札の概要調査

2020年10月26日 正法寺(浜田市三隅町)棟札調査(中世在地領主関係文書、益田氏関係分含む)

2020年12月1日～4日 北島家古記録の整理・撮影(古代出雲歴史博物館、東京大学史料編纂所と共同)

2020年12月16日・2021年1月27日 古代出雲歴史博物館所蔵中世史料の整理(野村家文書、富家文書)

随時 古代出雲歴史博物館所蔵史料の整理・目録作成(大田/恒松家文書、江津/中村家文書)

③ 中世史料集成

『大日本古文書 家わけ第九 吉川家文書』『史料纂集 山科家礼記』目録作成、Web公開

『萩藩閥閥録』等目録作成(継続中)

〔2〕テーマ研究

(1) 山陰における古代交通の研究

1) 目的

全国で唯一、国単位としての詳細な記載が残る『出雲国風土記』の交通施設(道路・駅・橋・津済・剱・烽その他)の復元を試みる。

また、古代における交通制度、いわゆる駅伝制・情報伝達(計会帳ほか)・剱の制度・国司の交通・水上交通などを、地域に即して具体的に明らかにする。

古代のさまざまな条件に規定された、中央一周縁や地域間の「交通」の特色を明らかにする。(1)文化の伝播、(2)古代的な物流、(3)輸送業者の存在などを検討する。

2) 活動概要

最終年度となる今年度は、出雲国における古代官道の成立時期、地域支配に果たした古代交通の役割、信仰に関する道、内水面交通などの個別研究を行い、出雲国を中心として古代交通の諸相を把握することを目的にすすめた。史料・資料収集については、官衙・集落、条里遺構などの道路関連遺構の収集と交通関係史料収集を行った。

[担当者] 是田、久保田、平石、吉松、野々村、橋本、林、吉永

[客員研究員] 大橋泰夫(島根大学)、近江俊秀(文化庁)、中村太一(北海道教育大学)、市大樹(大阪大学)

3) 客員共同検討会

第5回客員共同検討会(2020年9月5日 於：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター研修室)

是田 敦「出雲国における遺跡分布と交通路の検討」

橋本 剛「出雲国の正倉と交通」

林 健亮「古代の山林寺院とその参道」

平石 充「出雲国の水上交通」

参加者 客員研究員4名、県職員12名、オブザーバー6名

第4回客員共同検討会（2021年3月21日 於：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター研修室）

吉松大志「計会帳にみる情報伝達」

中村太一「東南道と南西道の復元」

橋本 剛「古代山陰における交通の特質」

是田 敦「高丸遺跡・矢田Ⅱ遺跡・手間割付近での踏査」

参加者 客員研究員4名、県職員9名、オブザーバー4名

(2) 出雲神楽の研究

1) 目的

古代文化センターでは、これまでに「中国地方各地の神楽比較研究（島根県の神楽を軸に）」（平成18～21年度）、「石見神楽と地域創造」（平成22～24年度）という、県内の神楽を対象にした2本のテーマ研究を行ってきた。「出雲神楽の研究」はこれらのテーマ研究と基礎研究「祭礼行事調査研究」によって明らかにされた研究成果を踏まえ、これまで佐陀神能を中心として考えられてきた出雲地域の神楽について、各地域の神楽の歴史の変遷や祭礼との関係等から再検討し、出雲とその近隣地域の実態に即した「出雲神楽」の姿を明らかにするとともに、当該地域の神楽の特色を探ることを目的とする。（平成30～令和3年度）

2) 活動概要

研究3年目の令和2年度は、主として出雲市、雲南市、大田市等を中心に史料・道具類の調査・撮影等を実施した。調査を通じて、各神楽団体の活動実態や伝承状況を把握するとともに、神楽面の比較や演目等の分析から各地域の特色について検討した。また、昨年度より継続中に出雲地域の近世以降の祭礼・神楽関連史料の所在確認と調査に加え、出雲神楽の近現代の活動に関する資料収集を進めた。

〔担当者〕石山祥子、中安恵一、面坪紀久、浅沼政誌、品川知彦、岡 宏三、藤原宏夫

〔客員研究員〕山路興造氏、中野洋平氏、錦織稔之氏

3) 客員共同検討会

第3回客員共同検討会（2020年10月15日 於：古代文化センター）

〔研究報告〕

岡 宏三 「佐陀神能テキストの分析」、「大庭早玉社の新出神楽史料」

石山祥子 「出雲地方における〈式三番〉の広がり」と展開」

藤原宏夫 「神楽能「エビス」について」

参加者：客員研究員2名、職員8名

第4回客員共同検討会（2021年3月21日 於：埋蔵文化財調査センター）

中野洋平 「近現代における出雲神楽の研究へ向けた予備的考察―大社教神楽本部の活動を中心に」

喜多村理子 「明治期の神社制度とその影響」

面坪紀久 「19世紀大原郡における神能の執行形態について」

参加者：客員研究員3名、職員7名、調査指導1名

4) 資料調査等

2020年6月3日 史料調査 於：水上神社（大田市温泉津町西田）

2020年6月22日 文書調査・撮影 於：須我神社（雲南市大東町須賀）

2020年6月26日 神楽道具類調査 於：狩山八幡宮（雲南市大東町下佐世）

2020年7月6日 神楽道具類調査 於：狩山八幡宮（雲南市大東町下佐世）

2020年7月29日 文書調査・撮影 於：須我神社（雲南市大東町須賀）

2020年7月30日 神楽道具類調査・撮影 於：塩冶コミュニティセンター（出雲市塩冶町）

2020年8月21日 神楽道具類調査・撮影 於：原田公民館（出雲市佐田町原田）

2020年8月28日 文書調査・撮影 於：須我神社（雲南市大東町須賀）

2020年8月30日 神楽道具類調査 於：上組ふれあい集会所神楽館（雲南市大東町山王寺）

2020年9月12日 史料調査 於：松江市東忌部町熊山
 2020年9月30日 文書調査・撮影 於：須我神社（雲南市大東町須賀）
 2020年10月4日 資料調査 於：多根神楽伝承館（大田市三瓶町下多根）
 2020年10月9日 土手町神楽見学 於：熊野神社（出雲市斐川町三分市）
 2020年10月16日 佐陀神能見学 於：八幡宮（松江市鹿島町片句）
 2020年10月24日 大土地神楽見学 於：大土地荒神社（出雲市大社町杵築西）
 2020年10月29日 文書調査・撮影 於：須我神社（雲南市大東町須賀）
 2020年11月2日 御崎立神事見学 於：毛津神社（出雲市佐田町毛津）
 2020年11月12日 神楽道具類調査・撮影 於：許曾志神社（松江市古曾志町）
 2020年11月26日 資料調査 於：出雲市佐田町佐津目・同町原田
 2020年11月28日 神楽道具類調査・撮影 於：お茶の里唐川館（出雲市唐川町）
 2020年12月10日 湯立神事、神等去出神事見学 於：万九千神社（出雲市斐川町併川）
 2020年12月13日 神楽道具類調査・撮影 於：塚原八幡宮（飯南町野萱）
 2020年12月15日 中倉家文書調査 於：松江市歴史まちづくり部史料調査課（松江市学園南一丁目）
 2020年12月20日 神楽道具類調査・撮影 於：お茶の里唐川館（出雲市唐川町）
 2021年2月8日 神楽道具類調査・撮影 於：狩山八幡宮（雲南市大東町下佐世）
 2021年2月25日 文書調査・撮影 於：須我神社（雲南市大東町須賀）
 2021年3月2日 神楽道具類調査・撮影 於：小河内集会所（雲南市大東町小河内）

(3) 中世石見における在地領主の動向

1) 目的

益田氏と吉見氏の対立関係を基軸として、次の2点を文献・考古双方の視点から考察する。

1. 政治面では、幕府や大内氏など西中国・九州地方北部の大名と益田氏と吉見氏との関わりにも留意して、中世における西石見の政治・軍事動向を明らかにしたい。
2. 経済面では、益田氏と吉見氏が争った高津川の權益、さらには東アジア規模で展開する交流・交易による權益等にも視野を広げて、両氏の経済基盤を明らかにしたい。

2) 活動概要

今年度は、客員研究員共同検討会での報告と議論を通じて、室町幕府や大内氏・毛利氏等の大名権力と、益田氏・吉見氏等領主との関係について分析した。益田氏・吉見氏関連の土師器や貿易陶磁器の事例収集と分析も行い、それぞれの勢力圏における遺物の変遷や特徴などに注目しつつ進めた。また、益田氏・吉見氏に関わる文化財の情報を収集し、一覧表にまとめた。検討会等での議論を経て、研究を総括した。

〔担当者〕目次謙一、勝部智明、田村亨、東山信治、倉恒康一、伊藤大貴、守岡正司、廣江耕史
 〔客員研究員〕久留島典子、川岡 勉、鈴木康之、本多博之

3) 客員共同検討会

第5回客員共同検討会

（2020年9月22日（火） 於：益田市役所および雪舟の郷記念館・大喜庵（いずれも益田市内））

東山信治「益田地域の中世土師器」

守岡正司「山口県萩市萩城跡出土の陶磁器」

伊藤大貴「石見吉見氏と室町幕府」

（資料配布等）「周南市大向門前遺跡の概要」「益田市本郷遺跡出土の湖州鏡」

参加者：客員研究員4名、指導者1名、職員9名、県内関係機関職員10名、オブザーバー2名

第6回客員共同検討会

（2021年3月8日（月）・9日（火） 於：益田市役所）

久留島典子「益田家文書における文書の集積と分散－美濃地・黒谷関係文書を中心に」

川岡 勉「大内氏の石見支配と吉見氏」

鈴木康之「石見西部地域における中世土器・陶磁器の特質－土師質土器の変遷過程とその機能・用途をめぐって」

てー」

本多博之「大名毛利氏の国衆編成－石見吉見氏を中心に－」

参加者：客員研究員4名、指導者1名、職員8名、県内関係機関職員8名、オブザーバー1名

4) 資料調査等

2020年6月4日・8月5日：沖手遺跡出土湖州鏡の調査、於：島根県埋蔵文化財調査センター

2020年8月19日：土師器調査検討会、於：益田市立市民学習センター

2020年8月24日～26日：周南市立美術博物館所蔵貿易陶磁器および関連地点の調査

2020年9月1日：萩博物館所蔵資料の調査

2020年10月5日：津和野町中世陶磁器調査、於：津和野町民センター

2020年10月26日：正法寺（浜田市）所蔵益田氏関係棟札の調査

2021年1月13日：訂心寺（浜田市）所蔵羅漢像等の調査

2021年2月2日：萩市教育委員会所蔵土師器・陶磁器の調査

(4) 古代出雲と吉備の交流

1) 目的

考古学によって従来から指摘されていた、弥生時代から古墳時代にかけての出雲（山陰）と吉備の交流について、現段階での研究レベルに基づいて再評価を行う。また、両地域の関係について考古学、文献古代史、自然科学の分野から検討を行い、汎列島的な国家形成以前の地域間交渉と地域形成の関係性を明らかにする。

2) 活動概要

今年度は、主に弥生時代中期後半から後期における遺物を中心に両地域の様相を検討した。具体的には、出雲－吉備及び周辺地域の青銅器・鉄器の様相検討や山陰地域出土の吉備系土器・出土遺跡集成を行った。さらに、吉備地方における成立期の特殊器台とその製作集団・体制から、特殊土器生産の実体と出雲の弥生遺跡から出土する背景を探ることとした。併せて土器の胎土分析を開始するとともに、古墳時代後期の墓制・手工業生産等の比較も行った。

〔担当者〕 勝部智明、久保田一郎、平石充、是田敦、松尾充晶、岩本真実、原田敏照、神柱靖彦、澤田正明、池淵俊一、田原淳史、伊藤智、岩崎孝平、真木大空、上山晶子

〔客員研究員〕 宇垣匡雅、會下和宏、大久保徹也

〔共同研究者〕 今津勝紀、清家章、光本順

3) 検討会

第2回検討会（2020年8月29日（土）・30日（日） 於：埋蔵文化財調査センター）

北島大輔「弥生青銅器からみた出雲と吉備」

會下和宏「弥生時代鉄器の様相－中国地方を中心に」

勝部智明「吉備系土器出土遺跡集成－山陰－」

池淵俊一「出雲地方出土の吉備系土器について」

宇垣匡雅「特殊器台研究の現状・課題」

山口莉歩「楯築遺跡を中心とした特殊器台成立期の製作体制」

参加者：客員研究員3名、共同研究者3名、ゲストスピーカー2名、職員16名、オブザーバー4名

第3回検討会（2021年3月27日（土）・28日（日） 於：埋蔵文化財調査センター）

岩崎孝平「出雲・吉備の主要古墳石室の構造比較」

坂本豊治「今市大念寺古墳出現の背景を探る－副葬品を中心に－」

尾上元規「吉備の後期古墳と手工業生産」

平石 充「出雲のミヤケについて」

今津勝紀「古代吉備中枢部の開発をめぐる基礎的考察」

光本 順「分銅形土製品の地域的展開と出雲・吉備」

上山晶子／勝部智明「胎土分析中間報告」

松本直子／モニカ・グルミニ／野坂俊夫「島根県出土吉備系土器の理化学分析－楯築遺跡出土資料との比較－」

参加者：客員研究員 3 名、共同研究者 3 名、ゲストスピーカー 3 名、職員 17 名、オブザーバー 2 名

4) 資料調査等

2020年 5 月 25 日：安来市内遺跡出土の吉備系土器資料調査

2020年 6 月 5 日～12月 24 日：カウカツ 1 号墓・長曾土壇群・宇山遺跡・仲仙寺墳墓群出土土器の資料調査

2020年 12 月 2 日：岡山県内遺跡の胎土分析既存試料の所在確認調査

(5) 近世近代の交通と地域社会経済

1) 目的

1. 近世近代の島根県域において展開した経済活動や人の移動について、交通史の視角から追究する。
2. ①輸送主体(船)や輸送拠点(港)に注目してその歴史的な意義や変遷過程について、②近代化において交通(廻船、汽船、鉄道)の果たした役割について、③人の移動の中でもとりわけ旅行史の観点から旅における社寺参詣や観光と交通の関わりについて、その具体像を明らかにする。

2) 活動概要

本年度は、主に先行研究の整理や基礎資料の調査、収集を行った。また客員研究会を 2 回開催して情報共有を図るとともに、意見交換によって今後の研究の方向性などについて議論した。

〔担当者〕中安恵一、石山祥子、目次謙一、田村亨、面坪紀久、熱田貴保、東山信治、矢野健太郎、東森晋
〔客員研究員〕木部和昭、平山昇、下向井紀彦

3) 客員研究会

第 3 回客員研究員共同研究検討会（2020年 9 月 26 日～27 日 於：あすてらす）

〔研究報告〕

目次謙一「中世・近世温泉津温泉と陰陽交通路」

熱田貴保「石東地域における近世近代の瓦の生産と流通」

中安恵一「明治 20～30 年代における石見帆船の廻船経営」

下向井紀彦「近世後期の山陰諸港における倉庫金融と産物移出」

〔巡見〕美郷町・江津・温泉津

参加者 客員研究員 3 名、調査協力者 1 名、県職員 8 名、オブザーバー 1 名

第 4 回客員研究員共同研究検討会（2020年 3 月 13 日～14 日 於：埋蔵文化財調査センター）

〔研究報告〕

中山玄貴「18 世紀の宍道湖における渡海場の形成－庄原渡海場の事例から－」

中山玄貴「明治初期の稲扱生産と流通－神門郡奥田儀村・田儀櫻井家を事例に－」

中安恵一「道中記集成－島根への旅、島根からの旅」

面坪紀久「(史料紹介) 鉄道敷設と修学旅行」

石山祥子「関参りについて－中国地方の参詣者とその信仰」

平山 昇「近代の山陰地方の社寺参詣について」

参加者 客員研究員 3 名、調査協力者 2 名、県職員 7 名

4) 資料調査等

2020年 5 月 12 日 石見廻船経営文書調査（世界遺産センター）

2020年 5 月 28 日 近世石州瓦関係文書調査（松江市史編纂室）

2020年 6 月 29 日 大社宮島鉄道関係役場文書調査（飯南町役場）

2020年 7 月 3 日 美保関個人蔵資料調査（フォード自動車関係、関参り関係）

2020年 7 月 3 日 美保関個人蔵文書調査（隠岐汽船・近代旅館関係文書）

2020年 9 月 14 日 木津屋文書調査（世界遺産センター）

2020年 12 月 10 日 定方家文書調査（島根大学附属図書館）

2021年 3 月 4 日 荒木村尋常小学校資料調査（出雲市）

2021年 3 月 5 日 道中記関係資料調査（岡山県立記録資料館、香川県立文書館）

(6) 出雲と伊勢

1) 目的

出雲と伊勢は、ともに古代に起源をもつ杵築大社・伊勢神宮を有しており、国家形成史において重要な位置を占める地域として対比的に捉えられてきた。本研究では出雲と伊勢それぞれの地域社会の様相を分析し、その比較を通して、両地域の特質と日本列島の歴史に与えた影響を明らかにする。研究は中世以前を主な対象とするが、近現代に至るまで相互に影響を与えた両地域の関係性を多面的に明らかにすることを目的とする。

2) 活動概要

研究初年度となる今年度は研究上の課題を整理した上で、古代神祇制度上で特別な扱いを受けた両地域の対比的検討をおこなった。具体的にはまず、出雲と伊勢それぞれについて古墳時代以前の様相をふまえた上で、杵築大社・伊勢神宮の成立過程について整理をおこなった。さらに、国家的に重要視された地域神に対する神郡制度の実相や、『古事記』『日本書紀』における出雲と伊勢の位相差といった、研究上の前提となる枠組み事項についても分析を加えた。さらに、特徴的な特定の神郡、例えば安房地域を取りあげて、国家・朝廷と地域神の関係性を類型的にとらえ比較することを試みた。国家神と地域神の構造は出雲・伊勢を理解する上で重要な視点であり、杵築と熊野・内宮と外宮、という祭祀構造についても研究史をふまえて再検討をおこなった。

[担当者] 松尾、吉松大、久保田・田村・橋本・品川・岡・濱田

[客員研究員] 藤森馨(国士舘大学)、榎村寛之(三重県立斎宮歴史博)、
穂積裕昌(三重県埋蔵文化財センター)、塩川哲朗(皇學館大学)

3) 客員研究員 共同検討会

・第1回客員共同検討会

2020年9月10日 於) 島根県埋蔵文化財調査センター

松尾充晶「杵築大社成立の歴史的背景」

吉松大志「神郡研究の現状と課題」

穂積裕昌「伊勢神宮成立に関する考古学的研究 ～神郡(多気郡・度会郡)を探る～」

榎村寛之「古事記、日本書紀と伊勢、出雲」

・第2回客員共同検討会

2021年2月5日 於) 島根県埋蔵文化財調査センター ※客員研究員・指導者はリモート参加

松尾充晶「考古資料からみた安房地域の特質」

川尻秋生(早稲田大学)「東国の神郡」

塩川哲朗「伊勢神宮の両宮構造」

平石 充「杵築大社と熊野大社」

4) 資料調査等

・伊勢方面資料調査 2020年11月25日～27日

三重県総合博物館、本居宣長記念館、斎宮歴史博物館ほか

・安房方面資料調査 2020年12月9日～11日

館山市立博物館、大寺山洞穴遺跡、安房神社、小滝涼源寺遺跡、南房総市教育委員会ほか

(7) 古代隠岐の形成と特質

1) 目的

古代文化センターでは、テーマ研究「国家形成期の首長権と地域社会構造」(平成26～29年度)の中で、出雲地方・石見地方をモデルケースに地域社会の形成過程を解明する研究を行い、部分的に古代隠岐にも触れるところがあった。また、「古墳時代の玉類の研究」(平成26～29年度)では、本土から隠岐へ搬入された考古遺物を通して、隠岐と本土の地域間交流の一端が明らかにされた。

これら既往の研究成果を踏まえ、本テーマ研究では古代隠岐の地域社会形成過程を総合的に研究する。古墳時代には多様な地域間交流が確認された隠岐であるが、7世紀から8世紀になると交流先が出雲や畿内に収斂していく。この時期に「隠岐国」や「海部郡(あまぐん)」といった国郡制の形成が進行しており、これらの動きが連動していると予想される。隠岐は中央へ海産物を貢納し続けたため、海産物に付けられた荷札木簡が豊

富に残るといった特長をもつ。これら木簡に記載された古代隠岐の地名・人名に関する文字情報を活用しながら、7世紀後半～8世紀にかけての国家形成期に焦点を当て、地域社会形成過程の特色を探ることを目的とする。
(令和2～令和5年度)

2) 活動概要

研究1年目の令和2年度に2回の検討会を実施した。第1回では研究史の整理と遺された課題を抽出し、今後3年間の研究テーマとして考古資料の整理、隠岐と本土との交通、離島・小国の比較研究、土師器からみる生活様式等の大テーマを設定した。

〔担当者〕久保田、勝部、平石、是田、吉松、岩本、岩橋、東森、神柱、渡部

〔客員研究員〕大橋泰夫氏、花谷浩氏、市大樹氏

3) 客員共同検討会

第1回客員共同検討会(2020年9月6日 於:埋蔵文化財調査センター)

〔研究報告〕

久保田一郎 「古墳時代～奈良時代隠岐をめぐる研究の現状と課題」

平石 充 「荷札木簡からみた古代隠岐の研究」

岩橋 孝典 「高津久横穴墓群からみた隠岐島前の7世紀」

岩本 真実 「隠岐諸島出土須恵器の集成と古墳時代後期の研究課題」

参加者:客員研究員3名、関係機関3名、県職員12名

第2回客員共同検討会(2021年3月11日 於:埋蔵文化財調査センター)

松本 岩雄 「尼寺原遺跡概要と、矢尾平野周辺の遺跡分布」

久保田一郎 「国府比定地甲ノ原遺跡出土遺物の構成、特徴」

花谷 浩 「玉若酢命神社境内出土遺物の整理」

岩本 真実 「大井産須恵器の特徴と隠岐出土須恵器の観察視点」

吉松 大志 「国家形成期の隠岐島前地域の歴史的展開」

参加者:客員研究員3名、関係機関3名、県職員12名

4) 資料調査等

2020年7月16日 遺物借用 於:隠岐の島町教育委員会

2021年1月22日 資料調査 於:海士町教育委員会

〔3〕 古代歴史文化に関する共同調査研究

(1) 研究テーマ「古墳時代の刀剣類」

古代歴史文化にゆかりの深い県が互いに連携して、個々の地域的な研究だけでは見えにくかった日本の大きな古代史の流れを解明することを目的に、平成26年に古代歴史文化協議会を設立。以来、共同で調査研究をおこない、その成果を活かしてシンポジウムや展覧会などを開催し、全国に向けて情報発信を行っている。島根県知事が協議会会長をつとめており、島根県古代文化センターは協議会事務局として活動の総務を担当する。平成26～30年度は研究テーマを「古墳時代の玉類」とし、平成30年度には成果図書の刊行、展覧会の開催などをおこなった。令和元年度からはあらたに「古墳時代の刀剣類」をテーマとして、第2期の共同調査研究を進めている。今年度の活動内容は以下のとおり。

① 研究集会

- ・第12回研究集会(2020年11月30日～12月2日、宮崎県庁、宮崎県立西都原考古博物館)

概論報告「古代文献史料にみえる刀剣」(平石)、各県報告(松尾:各県の古墳時代刀剣にあらわれる特徴など)、分科会(研究項目、成果図書構成と分担の検討など)、資料実見調査(西都原考古博物館、えびの市歴史民俗資料館)

参加職員:平石、片平、松尾

※第12回研究集会は2020年8月に島根県での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症再拡大により中止

② 担当者Web会議

研究集会が開催できない代替措置として、Web会議による研究発表、意見交換をおこなった。

- ・第1回担当者Web会議（2020年9月25日）各県の集成状況報告、研究項目の検討など
 - ・第2回担当者Web会議（2020年10月29日）年次計画の検討など
 - ・第3回担当者Web会議（2021年2月10日）各県からの展示品候補の報告、成果図書担当内容の報告など
- ③ 中間研究発表会
研究の中間成果を公開する機会として「第5回古代歴史文化講演会」を東京都内で開催する計画であったが、感染症拡大のため今年度は中止。
- ④ 展覧会開催準備
令和4年度に、研究成果を一般向けに広く公開する機会として展覧会の開催を計画。開催館候補となる大阪歴史博物館と協議、調整をおこなった。また展覧会の内容について、展示品構成や開催計画の検討など具体的作業に着手した。

■古代文化情報発信事業

令和2年春から始まった日本国内での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和元年度まで実施してきた事業について、大幅な見直しをおこなうこととなった。具体的には古代文化講座のうち東京開催予定だった講座3回については、東京での開催を取りやめ松江開催の講座と合わせ、島根の歴史文化講座+オンライン5回として、県内会場での講座とそのオンライン配信をおこなった。隠岐巡回講座・ワークショップも現地で実施せずオンライン配信とした。また、11月に東京で実施予定であった「古代出雲シンポジウム」は中止し、第8回古代歴史文化賞を翌年に延期している。代替措置として、動画配信・懸賞付きクイズ・電子ブックからなる、「自宅で楽しむ島根の歴史文化」を文化財課HPにて公開した。

〔1〕古代文化講座

1. 島根の歴史文化講座+オンライン（会場での講座+オンライン配信）

第1弾 日本書紀・神話と出雲

第1講 「〈出雲〉という思想」 原武史（放送大学 教授）

日時 11月1日（日）13：00～15：00（オンライン配信期間11/1～8）

会場 松江テルサ（松江市）

参加者 会場232人 オンライン申し込み765人 アクセス数1,829

第2講 「出雲国風土記の神話と伝説」 橋本雅之（皇學館大学 教授）

日時 11月22日（日）13：00～15：00（オンライン配信期間11/22～29）

会場 松江テルサ（松江市）

参加者 会場208人 オンライン申し込み709人 アクセス数1,397

第3講 「日本書紀と出雲」 佐藤雄一（駒澤大学文学部 講師）

日時 12月6日（日）13：00～15：00（オンライン配信期間11/22～29）

会場 松江テルサ（松江市）

参加者 会場179人 オンライン申し込み653人 アクセス数1,074

第2弾 島根の戦国時代

第1講 「尼子家の「御一家再興」戦争と山中幸盛」 中野賢治（山梨県立博物館学芸員）

日時 1月24日（日）13：00～15：00（オンライン配信期間1/24～2/13）

会場 松江テルサ（松江市）

参加者 会場207人 オンライン申し込み690人 アクセス数1,470回

第2講 「石見の領主と戦国大名～益田氏らと毛利氏～」 目次謙一

日時 2月14日（日）13：00～15：00（オンライン配信期間2/14～21）

会場 グラントワ小ホール（益田市）

参加者 会場125人 オンライン申し込み627人 アクセス数1,222回

2. 大阪開催 島根学講座in大阪（会場での講座）※観光振興課・大阪事務所との共催事業

第1講 「日本書紀と出雲」 佐藤雄一（駒澤大学文学部 講師）

日時 10月11日（日）13：50～15：00

会場 大阪歴史博物館講堂（大阪市） 参加者85人

- 第2講 「古代の隠岐と大和飛鳥」 花谷浩（出雲弥生の森博物館 館長）
 日 時 11月21日（土）13:50～15:00
 会 場 大阪歴史博物館講堂（大阪市） 参加者46人
3. 隠岐国巡回講座（オンライン配信）
 第22回 隠岐国巡回講座「隠岐の歴史を地下から探る」
 動画公開期間：11月5日（木）～12月11日（金）
 第1講 「掘り出された隠岐の近代史～隠岐空港の発掘調査から～」(約40分) 原田敏照
 オンライン申し込み291人 アクセス数516回
 第2講 「こうして「知夫」が生まれた～古代の知夫郡に生きた人々～」(約40分) 吉松大志
 オンライン申し込み275人 アクセス数468回
4. 石見国巡回講座・ワークショップ（会場での講座）
 第19回 「潟湖の役割からみた中世の浜田」 高橋一樹（明治大学教授）
 日 時 10月31日（土）13:30～15:00
 会 場 石見文化ホール 小ホール（浜田市）
 受講人数 46人
 第20回 「まち歩き 浜田の歴史～中世から近世の記憶をたどる～」
 阿部志朗（島根県立益田翔陽高校教諭）
 日 時 3月13日（土）13:30～15:30
 会 場 浜田市内（浜田城資料館発着）
 受講人数 64人
- 〔2〕 自宅で楽しむ 島根の歴史文化（文化財課HP <https://www.pref.shimane.lg.jp/bunkazai/stayhome/>で公開）
1. 動画で楽しむ島根の歴史文化
 内 容 令和元年度東京講座の動画4本、令和元年度古代文化シンポジウム「出雲と大和」（東京開催）の動画
 公開開始4月30日 アクセス数 34,030（3月1日現在）
 2. 島根 いにしえからの挑戦状（懸賞付き歴史クイズ30問×4回）
 回答期間 第1章 5月16日～6月12日、第2章 6月13日～7月12日、
 第3章 7月13日～8月10日、第4章 8月11日～9月14日
 のべ回答者864・全問正解者389 回答期間の総アクセス数 16,088
 3. 電子ブック いまどき島根の歴史（山陰中央新報社連載記事の50話 掲載）
 第1・2章（13話）公開開始 6月12日、第3・4章（20話）公開開始 7月14日
 第5・6章（17話）公開開始 8月14日アクセス数 10,371（2月末現在）

〔3〕 第8回古代歴史文化賞ならびに記念行事

令和3年度に延期。

■その他の情報発信

〔1〕 山陰中央新報社

- ①「いまどき、島根の歴史」（令和2年6月まで毎週土曜日、7月より同日曜日文化欄に連載）
 2020年4月11日（第124号）～2020年3月28日（第170号）掲載。現在継続中。
 執筆者：平石、久保田、勝部、是田、目次、松尾、石山、中安、吉松、田村、野々村、岩本、面坪、橋本、
 品川
- ②その他松江講座・古代出雲歴史博物館企画展紹介記事など。
 執筆者：岡・東山・吉永・倉恒

〔2〕 古代文化センターFacebook <https://www.facebook.com/shimane.kodai>

2020年4月～2021年3月の間に9回更新。

(4～6月：4回、7～9月：4回、10～12月：0回、1～3月：1回)

■刊行物

- ①『古代文化研究』第29号 2021年3月刊 A4版
 - ②『しまねの古代文化』第28号 2021年3月刊 A5版
 - ③『古代出雲ゼミナールⅦ—古代文化連続講座記録集一』2021年3月刊 B6版(販売：ハーベスト出版)
- ・島根県古代文化センター研究論集
 - ④第25集『山陰弥生文化の形成過程』 2021年3月刊行 A4版
 - ⑤第26集『日本書紀と出雲観』 2021年3月刊行 A4版
 - ・調査研究報告書
 - ⑥56『島根県西川津遺跡出土品1 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所蔵資料再整理事業報告書2』